2026 年 12 月期　第 3 四半期決算説明会　Q&A

日時：2026 年 11 月 13 日（金）17:30-18:15

No	項目	Q	A
1	全体	Project10 で掲げていた値上げ効果は想定通りに進捗しているか？	当初目標は達成できているが、材料価格などのコストアップの影響は当初想定以上であった。
2	全体	2026 年における事業全体への為替の影響度はどの程度であったか？	3Q 累計で売上+101 億円、営業利益+13 億円の為替効果があった。
3	CMP	CMP における受注の好調さは来期も引き続き継続すると見ているか？また、受注の伸びに関連して浜松工場の能力増強のタイミングはいつ頃を予定しているのか？	現在の受注トレンドについて大きな変化は生じておらず、来期の受注水準に関しては楽観も悲観もしていない。生産能力については、津工場の稼働率にはまだ余裕があることから、浜松工場の能力増強については需要見合いで、タイミングを慎重に見極めたい。
4	CMP	北米の自動車産業向けロボット需要の動向についてはどのように見ているのか？	昨年はほぼ需要を感じられなかったが、2026 年に入り徐々に需要が動き始めている手ごたえを感じている。業績上は来期での貢献を期待している。
5	CMP	RVmini の 2026 年の売上目標は 2 億円のまま変更ないか？	変更なし。様々なお客様に評価いただいていて、当社としても拡大に期待をしている。実際の採用タイミングは顧客次第であることから、進捗があれば報告したい。
6	CMP	CMP の 4Q の OPM 見通しは差引で 8.9%となり、1Q～3Q に比べて低くなっている。売上は上がる見通しにも関わらず利益が減少するのはなぜか？	4Q はもともと税金も含め費用が発生しやすい四半期であることに加え、2026 年上期時点で一過性のコスト発生遅れがあり、3Q で 2 億円、4Q で 4 億円の発生を見込んでいることから、4Q の OPM が低くなる見通しである。
7	CMP	CMP の 3Q の OPM が 2Q に比べて低下しているのは、経費の発生遅れ以外に原材料コストアップなどの要因があるのか？	2Q の OPM がコスト発生遅れにより高い水準であった影響によるもの。原材料価格の高騰については、計画の範囲内での推移であると認識している。

No	項目	Q	A
8	CMP	自動車関連の投資が停滞している中にありながら、既に減速機受注が過去ピークに達している背景は何か？	自動車業界全体で見ると好調とは言えないが、中国自動車メーカー間での競争が、景況感とは別に需要を押し上げていると認識している。それに加えて（チャートは受注高ベースなので）減速機の単価の上昇も要因として考えられる。
9	TRS	舶用機器事業の受注状況は高水準にあるのか？	3Q のみでは QoQ+15%、YoY+26%であり、中国を中心として引き続き好調な需要環境が続いている。2026 年では前年比で約 30%の受注増加となっている。
10	TRS	TRS の 4Q の OPM は差引で 15%程度となり、1Q～3Q よりも減少するが一過性の要因などはあるか？	TRS においても上期で 5 億円のコスト発生遅れがあり、4Q での発生を見込んでいることから 4Q の OPM が低くなる見通しとなっている。
11	TRS	TRS の 3Q の OPM は QoQ で一段成長したように見えるが、収益性改善の背景は何か？	経費発生遅れや、TRS 内の販売構成比の変化が主要因である。